2022 年 12 月 24 日

高校ラグビー部の花園初出場から何を学ぶ

立命館慶祥中学校・高等学校
校長　江川　順一

12 月 18 日からが冬休みが始まりました。この原稿は、17 日の高校全校集会の校長講話において話したことをベースに、加筆してまとめたものです。

今年最後の全校集会に当たって、お話を３つします。

まず、１つ目、「新型コロナの状況」です。

新型コロナウイルスの新規感染者は、15 日現在、北海道で 6,371 名となりました。1 日の新規感染者数は前の週の同じ曜日を 14 日連続で下回りましたが、依然として高い水準が続いています。

今年の年末年始は、３年ぶりに行動制限のない年末年始です。冬休みに入ると、人との接触機会は確実に増えます。皆さんは、混雑する場所など、感染リスクが高まる場面での行動について、日常の感染対策を十分行うよう留意してください。

今年の 1 月、オミクロン株が道内で初確認、置き換わりが進む中で感染が急速に拡大しました。現在、「BQ.1」の検出が徐々に増え、オミクロン株のように、急拡大する可能性があります。加えて今冬、新型コロナウイルスばかりか、インフルエンザも３年ぶりに流行しそうな兆しがあります。新型コロナもインフルエンザも、感染対策は基本的に同じです。この冬休みには、どちらの感染症にも罹患しないよう、十分注意してほしいと思っています。

２つ目、「研修旅行」です。

この秋、新型コロナの状況を見据えながら、学校行事を平常時に戻していく対応を行いました。中学校にあっては、中１・中２、高校にあっては、高２の研修を実施しました。

高２の国内研修は、10 月下旬に５泊６日で実施し、昨年度に引き続き、選択型国内研修としました。生徒企画の６コース、学校企画の３コース、あわせて９コースで実施しました。東北・北陸・東海・中国・広島・四国・九州の各地方、そして奄美大島です。コロナ禍に配慮し、国内における代替研修でした。

また、海外研修も再始動しています。2019 年度以来、３年ぶりです。９月下旬、７泊８日で第１弾のカナダバンクーバー研修が行われました。研修テーマは「共生社会のあるべき姿をデザインする」として、民族共生について、フィールドワークを実施したり、現地の方々と議論を重ねたりしました。

明日 18 日には、マレーシア、ボルネオ島、ベトナムの３コースが同時に出発します。明後日 19 日には、SSH タイコースも出発します。そして、年明けには、ハワイ、ハーバード大学、GLA ネパール、GLA オーストラリアなどが出発します。

慶祥の大きな魅力の一つは、研修旅行です。研修旅行のために、事前準備を周到に重ねてきた皆さん、本当にお疲れ様でした。研修実施に向けて熱い思いを持っているのは、皆さんとともに真剣に、そして懸命に取り組んできた教員も一緒です。

立命館憲章：「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、
正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成」

そのことを改めて確かめて、生徒の皆さんの、そして先生方の労苦をねぎらいたいと思います。

３つ目、「高校ラグビー部による花園初出場」です。

この秋、体育系、文化系のあらゆるクラブの活躍が顕著でした。全道大会・全国大会で堂々入賞するクラブが目白押しでした。その中でも、ここではラグビー部を取り上げたいと思います。

高校ラグビー部は、９月下旬に旭川で開催された、「第 75 回北海道高等学校ラグビーフットボール南・北選手権大会」において、強豪札幌山の手高校に 18 対７で勝利し、花園出場を勝ち取りました。花園出場につながるこの大会での慶祥の優勝は創部以来初、決勝進出は 11 年ぶり３度目の挑戦でした。

決勝戦は、大雨の中開催されました。試合には、ラグビー部の保護者の皆さんはじめ、ラグビー部の OB や OG、そして、ラグビー関係者がたくさん応援に駆けつけました。応援席は、200 人ほどの人たちで溢れかえっていました。私も、その中で保護者の皆さんとともに、応援しておりました。

松田監督は、「前々から悪天候を想定して準備をしたが、予想を上回る大雨でゲームプランを変更した。生徒達は、試合中もキャプテンを中心に良く意思統一をし、戦術を徹底した。チームスタッフの考えを上回るほどだった。特に風下の中、13-0 で折り返した前半は満点の出来」と述べています。

応援席から見ていた生徒の動きは、素晴らしかった。キャプテンを中心に大きく声掛けをしていたのです。私は、２月に行われた埼玉県熊谷市で行われた選抜大会も見ていましたが、その時は、松田監督が指示を出していたと思います。しかし、今回は、指示出しをしたのは、キャプテンでした。キャプテン中心に選手同士がつながり、刻々と変わる状況に応じて、プレイする選手自身がゲームを組み立てていたのです。もちろん、そのためには、監督を囲んでミーティングを何度も繰り返し、ゲームプランを考えることが必要でした。普段の練習についても、選手が自主的に計画し、監督に提案して行っていました。松田監督は、選手が常に自分たちで考えて行動することを、クラブ活動の中で鍛えていたのです。

これらのことから、今回の山の手戦では、監督主体から、選手主体のチームへの転換を図ったことが勝因ではなかったかと、私は考えています。

慶祥ラグビー部の花園での第一回戦は、12 月 30 日。相手は島根県代表の石見智翠館です。当日は、札幌駅南口のアスティ 45 ビル 16 階フロアにて朝 9:00 からパブリックビューイング会場を設けます。時間に余裕があれば、是非とも一緒に応援していただきたく思います。

さて、あなたは、この話を聴いて、どう考えますか。同級生の、先輩の、あるいは後輩の活躍を目の当たりにして、鼓舞されましたか？　私は、慶祥ラグビー部の目の覚めるような、鮮やかな活躍をもって、あなたが大いに勇気づけられ、あなた自身が活躍されることを大いに期待しています。

とりわけ、３年生の皆さん、大学入試に備える者、学内進学の課題研修に備える者、各自の進路はさまざまだと思いますが、悔いのない取組をすべく、この冬休みを大切に過ごしてください。皆さんの奮闘を期待しています。

高 3SP、他大コースの皆さんは、登校の機会が殆どありませんが、全力を尽くすことを祈っています。高１・２の皆さんと、高 3R コースの皆さんについては、年明けに、再び皆さん全員が揃って、元気な姿を見せてください。新型コロナとインフルエンザの猛威が心配です。すべての皆さんのご健康と命の安全のために、くれぐれも自覚的な冬休みでありますよう。

以上、応援団長の江川校長からのお話でした。